近松没後義太夫節初演作品一覧（上）［未定稿］

神津武男

はじめに

義太夫節の初演作品で、通し本（いわゆる丸本）の残るものは、四百四十を数える。ただし第一世代の作者三人（近松門左衛門・紀海音・錦文流）の著作、および作者未詳の竹本筑後掾（初世義太夫）初演作品を除いた数である。

本稿は、義太夫節の初演作品の数を明らかにするために、作品名を書き上げることを第一の目的とする。対象となる期間は、元号「享保」から「嘉永」までの、およそ百三十年間にわたるが、紙数の関係上、本稿では「宝暦」までを収め、「明和」以後は次の機会に譲りたい。

なお冒頭、お断り申し上げる。本稿のリストには、記載漏れや誤認なども多かろうと思われる。先学同学の御叱正によってのみ完成に近づくと信ずるので、未定稿として、御批判を賜りたい。

一　義太夫節初演作品の数

義太夫節の初演作品は、どれほどと数えられてきたのだろうか。

黒木勘蔵氏は、

> 約一世紀間に亙つて新作された義太夫節浄瑠璃の総数は、著者の知る限りでは無慮六百篇にも及ぶやうである。

と述べられた[1]。

内山美樹子氏は、

> 十七世紀初期以来の古浄瑠璃まで遡れば千数百にものぼると思われますが、ここでは義太夫節、それも江戸時代の、基本的に丸本（全段本）が伝わる作品に限っていえば、ほぼ七百数十

と数えられた[2]。

鳥越文蔵氏は、

> 浄瑠璃の作品はどのくらいの数になるのであろう。非常に大雑把な言い方を許してもらうと、古浄瑠璃時代五百点、新浄瑠璃時代七百点、ただし新浄瑠璃七百点のうち、近松門左衛門と紀海音二人の作品は個人名を冠した全集もあるので別格として除くと、新浄瑠璃も五百となる。

とされた[3]。

黒木氏は「六百」、内山・鳥越両氏は「七百数十」「七百」とする。およそ百点の差は正誤ではなく、『近世邦楽年表　義太夫節の部』（黒木氏は同書の編者）から『義太夫年表　近世篇』（内山・鳥越両氏は刊行会事務局をつとめられた）までの研究の進展を反映したものと解釈すべきであろう。

『義太夫年表』索引篇所載の、宮本瑞夫氏「正本所在目録」の掲げる作品名は、八百四十三を数える。宮本目録が三つの推計に比べ、さらに百から二百ほど多いのは、伝存不明のもの（「正本未見」「本不出」などと注記する）を含むためで、これら八十三を除くと、七百六十一となる。

七百台に並ぶ内山・鳥越・宮本各氏と、六百とする黒木氏との隔たりを、改題本や、写本で一本のみ伝わった諸作などを含むか否かの差であると、筆者は考えている。これらの資料は次稿に列挙するので、この点は次稿で再説したい。

概観すると、「義太夫節初演作品の数」は従来、通し本の残る作品の数を以て想定されてきたことが判る。その数、およそ七百前後と捉えられてきたことを確認しておきたい。

二　整理の目的と問題

ひとつの文学ジャンルに一体、「何作品あったか」との問いは、必ずしも本質的な課題ではないであろう。しかし「どれほどの本が伝えられているのか」との問いへの答えは、当該分野の基礎研究の水準を示すものと考える。

本稿作成の意義は、「本文」（テキスト）がどれほど伝わっているのか。我々はどれほどの「本文」を把握出来ているのか。義太夫節人形浄瑠璃研究の基礎を見つめ直すことにある。

整理の前提として。本稿の対象とする「義太夫節の初演作品」とは、義太夫節による人形浄瑠璃興行で初演された作品に限る（歌舞伎で初演された義太夫節作品『京鹿

子娘道成寺　道行』などは含まない）。

「義太夫節による人形浄瑠璃」は現在も人形浄瑠璃文楽をはじめとして、国内諸所に行われているので、明治期以後の諸作も含むべきであるが、整理の都合上、近世期までを対象とする。ただし浄瑠璃作者第一世代（近松門左衛門・紀海音・錦文流）には各々全集が備わること[4]、同時期の作者未詳の筑後掾初演作品についても活字本が刊行されていること[5]から、整理の対象から除外する。これは鳥越氏の整理に倣う処理である。

具体的には、浄瑠璃作者第二世代――竹本座の元祖竹田出雲と文耕堂、豊竹座の西沢一風と田中千柳と並木宗輔、および同時期の作者を含む――以降の著作になる初演作品を、対象とすることになる。なお近松生前に初演された、第二世代作者の著作を含むことを注記する。

整理の目的は、通し本の伝わる作品の数を明確にすることである。そのため、かりに作品番号を与えて、『年表』掲出順に、元号ごとに一番から数えた。各元号の最後の数字の総和が、すなわち「通し本の伝わる作品の数」となる。なお上演禁止のため、浄瑠璃本が出板されなかった二例（［享保］062『南蛮鉄後藤目貫』、［明和］058『太平頭鯵飾』）は、写本のみで伝わるものであるが、特に加えている。

内山氏は注（2）の論考の中で、「同じ作を題だけ変えて上演、出版している改題本」と、「稽古本は伝わるが、丸本は現存しない」作品への注意を促す。

改題書名を重複して数えることを避けるため、原題にのみ作品番号を与えたのであるが、この「改題本」の認定が、本稿整理の問題である。留意すべく心掛けたつもりであるが、見逃しがあるものと思われる。御叱正を願う。

また『年表』段階では伝存不明とされた作品の、伝本発見が続いている。

並木正三追善浄瑠璃『極楽往来蓮寄初』[6]は一九九五年夏、松竹大谷図書館で新たに整理登録され[7]、『和泉式部軒端梅』は、二〇〇〇年三月刊の『口野　足立家文書目録』（沼津市明治史料館目録26）に伝存が示された[8]。今後も伝本発見は続くであろう。そのため、『年表』が伝存不明とする分についても、頭に「→」を付して、作品名を掲げることとした。これらの作品の伝存について、御留意願いたい。

最後に、整理の今後の見通しを述べておきたい。

通し本の伝わる作品の数を明確にしたのちには、「通し本が残らず、抜き本のみ残る作品」の検討が待っている。通し本に見られない書名をもつ抜き本であっても、改題本である例（通し本『博多織恋鏑』と抜き本『世話仕立唐縫針』。部分的な書き換えを含む）もあり、通し本同様に、改題への留意が必要である。

通し本と抜き本の整理を終えた段階で、「板本の残る、義太夫節初演作品の数」が明らかになる。さらにのちには「本の残らない、義太夫節初演作品」について、絵尽や、番付の語り・人形役名の異同の点から検討して、改題（と推定される）作品を除いていけば、厳密な意味での「義太夫節初演作品一覧」を完成させることができるであろう。

では、このような取り組みにどのような意味があるのか。

一例を挙げる。『浪花里濫觴』は、『年表』にまったく記載のない作品であるが、享和三年四月に「市之側長門太夫」芝居で上演され、「丸本無御座、焼栗之段計五行ニ仕候」として、五行本のみが刊行された。五月、東本願寺の「差構」を理由として絶板にされた、と大坂本屋仲間記録『差定帳』に見えるものである[9]。これは、抜き本の検討によって把握できた事柄である。

「新たな興行の立項」や、諸作品の原作／改題関係などの点で、『年表』を充実させることが可能である。『年表』充実の波及効果は、小さくないと考える。

注

（1）黒木勘蔵氏著『浄瑠璃史』、青磁社、一九四三年十二月、「結語」五四九頁参照。

（2）内山美樹子氏「浄瑠璃再発見（一）―並木宗輔の作品と「北条時頼記」のことなど―」（『国立劇場　第一三五回文楽公演　平成十三年五月』パンフレット、日本芸術文化振興会、二〇〇一年五月所収）。

（3）鳥越文蔵氏「浄瑠璃略史」（『浄瑠璃集』新編日本古典文学全集、小学館、二〇〇二年十月所収）五頁参照。

（4）近松は、近松全集刊行会編『近松全集』、岩波書店、一九八五年。海音は、海音研究会編『紀海音全集』、清文堂出版、一九七七年。文流は、長友千代治編『錦文流全集』浄瑠璃篇、古典文庫、一九九一年、を参照のこと。

（5）古浄瑠璃正本集刊行会編『竹本義太夫浄瑠璃正本集』、大学堂書店、一九九五年。

（6）廣瀬千紗子氏「『並木正三不戻噺』翻刻と解題」（『芸能史研究』第一五九号、芸能史研究会、二〇〇二年十月所収）に、同書について触れるところがある。

（7）同時に登録された『恵方大黒天』八行本（奥付欠）は、加賀掾『甲子祭』の、第五のみ差し替えた義太夫本であった。『甲子祭』は東京芸大図の写本一点のみが知られているので、同書の板本の出現でもある。『恵方大黒天』と対校するに、写本『甲子祭』は、非常に丁寧な写しであると知られた。

（8）拙稿「新出浄瑠璃本『和泉式部軒端梅』の紹介と翻刻―その他、明和前期の江戸人形浄瑠璃新出資料の紹介―」（『沼津市博物館紀要』27、沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館、二〇〇三年三月所収）参照。

（9）「」内の引用は、『差出帳』三番（卅三）（大阪府立中之島図書館編『大坂本屋仲間記録』第八巻、清文堂出版、一九八一年所収、一七三頁）より。本屋仲間記録ではほかに、『出勤帳』二十番（同右、第二巻、二三七頁）、『鑑定録』〔六十七〕（第八巻、五〇〇頁）、『裁配帳』二番〔七十六〕（第九巻、二二六頁）に同件に関する記述がある。

【凡例】

一、本稿は、近松没後義太夫節初演作品のリストである。

一、初演年代順に配列した。

一、記載事項は、「作品番号」「作品名」「作品名よみ」「書誌」「備考」とした。

一、「作品番号」は各元号ごとに、順に数えた。

なお初演番号のあとの、「竹」は竹本座、「豊」は豊竹座の、各劇団初演であることを参考のため、特に示した。

一、「作品名」は、大字七行本の、内題を採用した（角書は省略）。特に書体をゴチックとした。七行本以外に基づく場合は、備考に注記した。

一、「作品名よみ」は、包紙の振り仮名を記した。番付・絵尽は採用しなかった。

振り仮名無記の文字には、「|」を当該字数分置いた。

振り仮名のあとに「包紙（の残る本）の所蔵機関名」、続く（）内に「包紙の板元名」を略称を以て、記した。

所蔵機関名に「板木」とあるは、天理図書館所蔵の浄瑠璃本板木から、包紙などを抜き刷りした『院本表紙包紙集』を指す（三桁の洋数字は、同包紙集の頁数）。

板元略称の詳細は、次の通り。

加清　加島屋加島清助
吉宗　吉川宗兵衛
山九　正本屋山本九兵衛
紙与　紙屋与右衛門
正小　正本屋西沢小兵衛
西九　正本屋西沢九左衛門
大治郎　大津屋佐々井治郎右衛門
天源　天満屋玉水源治郎
伝吉　伝法屋寺田吉九郎
万仁　万屋保井仁右衛門

なお題簽・内題に振り仮名のある場合は、備考に記した。

一、「書誌」は、初板初摺の七行本に拠って、①に作者、②に年記、③に奥付の板元名を記した。なお原本に②年記の記載のない場合は、参考のため、作品番号の前に、初演年月を補った。

参考のため、翻刻書（戦後に行われた）のある場合、④に書名を略記した。

一、「備考」は、異板のある場合にその特徴、また改題本のある場合にその書名を記すなどした。

【近松没後義太夫節初演作品一覧】

［享保］

五年ごろ　001竹　**河内国姥火**　かはちのくにうばがひ　板木126（山九）①作者松田和吉（内題下）②なし　③山本九兵衛（京）

七年九月　002竹　**仏御前扇軍**　①近松門左衛門添削・作者松田和吉（内題下）②なし　③山本九兵衛（京）　④岩波近松全集14

八年正月　003　**はなまふせんニつはらおび**　①なし　②享保八年卯ノ正月吉辰（終丁裏）　③「近江屋板（江）」（題簽）　※書名その他、絵入十六行本に基づく。

八年二月　004竹　**大塔宮曦鎧**　①近松門左衛門添削　作者　竹田出雲掾・松田和吉　②なし　③山本九兵衛（京）　④岩波近松全集14　※内題下「松田和吉」を削った改修板がある。のちに享保十四年六月『新板大塔宮』、宝暦四年八月以前『太平記曦鎧』と改題される。

八年五月　005豊　**記録曽我玉箒髷**　①作者戸川不鱗（内題下）作者紀海音（奥）　②なし　③西沢九左衛門（大）　※内題「玉箒髷」に「かうかいわげ」と振り仮名がある。

八年七月　006豊　**井筒屋源六恋寒晒**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集

八年十一月　007豊　**建仁寺供養**　けんにんじくやう　京大文（西九）　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集

→八年十一月『桜町昔名花』　※伝存不明

九年二月　008豊　**頼政追善芝**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集　※享保十三年・宝暦元年七月『頼政扇子芝』と改題される。

九年七月　009竹　**諸葛孔明鼎軍談**　しよかつこうめいかなへぐんだん　板木204（山九）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫9

九年十月　010豊　**女蝉丸**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集

九年十一月　011竹　**右大将鎌倉実記**　うだいしやうかまくらじつき　板木102（空欄）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十年正月　012豊　**昔米万石通**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集　※のちに読本浄瑠璃『花櫓名取関』と改題される。

十年三月　013豊　**南北軍問答**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集

十年五月　014豊　**身替亜張月**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集　※内題に「みがはりゆみはりづき」と振り仮名がある。

十年五月　015竹　**出世握虎稚物語**　しゆつせやつこおさなものがたり　板木199（天源）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　※内題に「しゆつせやつこおさなものがたり」と振り仮名がある。

↓↓十年六月『復鳥羽恋塚』は、元禄年間『一心五戒魂』の改題。

十年九月　016竹　**大内裏大友真鳥**　たいだいりおほとものまとり　東京芸大図（天源）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫9

十年十月　017豊　**大仏殿万代石楚**　①作者　西沢一風・田中千柳（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集・叢書江戸文庫10

十一年二月　018豊　**曽我錦几帳**　①作者安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　※「第四　道行袖の大礒」「とんさく大こくまひ」の、各標題下に「作者安田蛙文」とある本、後者にのみある本、いずれにもない本の三種がある。

十一年四月　019豊　**北条時頼記**　ほうでうじらいき　板木311（西九）　①作者　西沢一風・並木宗助（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④西沢一風全集・叢書江戸文庫10　※署名「作者西沢一風」とある本は、享保十九年正月の越前少掾引退興行再演時の改修板。

十一年九月　020竹　**伊勢平氏年々鑑**　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十二年正月　021竹　**敵討御未刻太鼓**　かたきうちおやつのたいこ　板木118（吉宗）　①作者長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　※内題「御未刻太鼓」に「おやつのたいこ」と振り仮名がある。

十二年二月　022豊　**清和源氏十五段**　せいわけんじ――だん　日本女子大図（西九）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十二年四月　023竹　**七小町**　なゝこまち　文楽劇場（山九）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫9

十二年八月　024竹　**三荘大夫五人嬢**　さんしやうだゆふこにんむすめ　板木191（空欄）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫9

十二年八月　025豊　**摂津国長柄人柱**　つのくにながらのひとはしら　板木262（空欄）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫10

十三年三月　026竹　**工藤左衛門富士日記**　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十三年四月　027豊　**尊氏将軍二代鑑**　たかうぢしやうくん　だいかゝみ　演博（西九）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十三年五月　028豊　**南都十三鐘**　なんと――がね　板木276（万仁）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十三年五月　029竹　**加賀国篠原合戦**　かかのくにしのはらかつせん　板木112（山九）　①作者　竹田出雲・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫9

↓↓享保十三年『頼政扇子芝』（よりまさあふぎ―しば　天理図（西九））は、享保九年二月『頼政追善芝』の改題。この時は題簽・包紙での改題で、宝暦元年再演時に至って内題が埋木された。

十四年正月　030豊　**後三年奥州軍記**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫10

十四年正月　031　**愛護若都の富士**　①作者辰松幸助（内題下）　②享保十四年乙酉年正月吉日（奥付）　③手島屋（江）・野辺屋（江）

十四年二月　032竹　**尼御台由比浜出**　①作者　竹田出雲・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

↓↓十四年六月　新板大塔宮　しんはんおほとうのみや　板木111（山九）　※享保八年二月『大塔宮曦鎧』の改題（包紙と題簽。内題は『大塔宮曦鎧』のまま）。

十四年八月　033竹　**眉間尺象貢**　①作者　竹田出雲掾・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十四年九月　034豊　**藤原秀郷俵系図**　ふぢはらのひでさとたはらのけいづ　板木308（空欄）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十四年十一月　035竹　**京土産名所井筒**　きやうみやげめいしよのいづゝ　板木141（山九）　①作者長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　※のちに『業平男今様井筒』と改題される。

十五年正月　036豊　**蒲冠者藤戸合戦**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十五年二月以前　037竹　**梅屋渋浮名色揚**　①松田和吉作（内題下）　②なし　③奥付欠　※奥欠本以外残らない。

十五年二月　038竹　**三浦大助紅梅靹**　みうらのおほすけかうばいたづな　演博（加清）　①作者　長谷川千四・文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫38　※内題下「作者　長谷川千四・松田和吉」とする覆刻板も残る。

十五年五月　039豊　**本朝檀特山**　ほんてうだんどくせん　板木316（天源）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　※内題「檀特山」に「たんどくせん」と振り仮名がある。

十五年八月　040竹　**信州姨拾山**　①作者　長谷川千四・文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十五年八月　041豊　**楠正成軍法実録**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十五年十一月　042竹　**須磨都源平躑躅**　すまのみやこげんへいつゝじ　板木217（紙与）　①作者　文耕堂・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十六年正月　043豊　**源家七代集**　げんけしちたいしう　板木161（万仁）　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十六年四月　044豊　**和泉国浮名溜池**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十六年九月　045竹　**鬼一法眼三略巻**　きいちほふげんさんりやくのまき　板木137（紙与）　①作者　文耕堂・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十六年十月　046豊　**赤沢山伊東伝記**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

→→十七年正月『八百屋お七恋緋桜』は、紀海音『八百やお七』の改題（題簽）。

十七年四月　047竹　**増補用明天王**　①なし　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

※中字十二行本の内題は『増補用明天王職人鑑』とある。

十七年五月　048豊　**今様傾城反魂香**　①なし　②なし　③正本屋九左衛門（大）　※のちに安永五年七月『音曲八の巻』と改題される。

→→十七年六月『伊達染手綱』は、近松『丹波与作』七行本の改題（『丹波与作』巻末の「与作おどり」を削除する）。

十七年九月　049竹　**壇浦兜軍記**　だんのうらかぶとぐんき　板木254（空欄）　①作者　文耕堂・長谷川千四（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④小学館日本古典文学全集45

十七年九月　050豊　**待賢門夜軍**　①作者　並木宗助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十七年十月　051豊　**忠臣金短冊**　ちうしんこがねのたんざく　中之島図（西九）　①作者　並木宗助・小川丈助・安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫10

※内題に「ちうしんこがねのたんざく」と振り仮名がある。

→→十七年十二月『前内裏島王城遷』は、非・義太夫節。『照天姫操車』も同様。

十八年二月　052豊　**お初天神記**　①なし　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十八年四月　053竹　**車還合戦桜**　①作者文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

十八年四月　054豊　**鎌倉比事青砥銭**　①作者安田蛙文（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

→→十八年六月『景事揃』。『音曲千本竹』（山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大））は、この時の刊行ヵ。

→→十八年七月『重井筒容鏡』は、近松『心中重井筒』の改題。のちに『追善重井筒』と再改題される。

十八年七月　055豊　**莠伶人吾妻雛形**　ふたばれいじんあづまひながた　板木307（空欄）　①作者　並木宗助・同丈助（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十九年二月　056竹　**応神天皇八白幡**　おうじんてんわうやつのしらはた　板木110（天源）　①作者文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫38

十九年五月以前　057　**傾城山姥都歳玉**　①なし　②なし　③さがみや与兵衛（江）　※書名その他、絵入十四行本に拠る。

十九年六月　058豊　**曽我昔見台**　そかむし（ママ）けんだい　板木234（西九）　①作者近松氏　並木宗助・同丈助／集之（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

十九年八月　059豊　**那須与市西海硯**　なすのよいちさいかいすゞり　愛媛大図（天源）　①作者　並木宗助・同丈助（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫11

→→十九年十月以前ヵ『契情我立柚』は、非・義太夫節ヵ。※句点が行頭に付される点からは、宇治加賀掾系統との関連が想定される。また奥付記載の太夫の動静から江戸での初演と考えられているが、本そのものは上方板（奥付の板元は、山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）とある）とみられる点が整合しない。

十九年十月　060竹　**芦屋道満大内鑑**　あしやだうまんおほうちかゞみ　板木082（紙与）　①作者竹田出雲（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④岩波新日本古典文学大系93

二十年正月　061竹　**元日金歳越**　ぐはんじつこがねのとしこし　板木149（紙与）　①作者文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

二十年二月　062豊　**南蛮鉄後藤目貫**　①作者無名字（終丁裏）　②于時延享五歳戊辰正月晦日改之（終丁裏）　③なし　④叢書江戸文庫11　※書誌は、東京芸大図の写本（W768.427-Na-10）に拠る。準備段階で上演差止めとなり、初演されなかった。そのため浄瑠璃本も刊行されず、写本でのみ流通した。

二十年五月　063豊　**万屋助六二代褄**　よろづやすけろくにだいがみこ　演博（西九）　①並木宗輔添削　作者並木丈輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

二十年八月　064豊　**苅萱桑門築紫鞏**　かるかやだうしんつくしのいへづと　早大図（西九）　①作者　並木宗輔・並木丈輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　※内題下作者署名を削って、「座本豊竹越前少掾」と埋木した改修板がある。なお中字十行本の内題は、『苅萱桑門筑紫鞏』とある。

二十年九月　065竹　**甲賀三郎窟物語**　かうかの――いはやものかたり　板木127（山九）　①作者　竹田出雲・文耕堂（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江

［元文］

元年二月　001竹　**赤松円心緑陣幕**　あかまつゑんしんみどりのぢんまく　演博（紙与）　①作者　文耕堂・三好松洛（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

↓↓元年二月『天神記冥加の松』　※伝存不明

元年三月　002豊　**和田合戦女舞鶴**　わだかつせんおんなまひづる　板木350（西九）　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫11　※内題下作者署名を削って、「座本豊竹越前少掾」と埋木した改修板もある。

元年五月　003竹　**敵討襤褸錦**　かたきうちつゞれのにしき　板木120（空欄）　①作者　文耕堂・三好松洛（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

元年十月　004竹　**猿丸太夫鹿巻毫**　①作者　文耕堂・三好松洛（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫38

元年ヵ二年　005　**今様東二色**　①蛙井集之（奥付）　②なし　③三河屋源七（江）

二年正月　006豊　**安倍宗任松浦簪**　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

二年正月　007竹　**御所桜堀川夜討**　ごしよさくらほりかはようち　日大図（山九）　①作者　文耕堂・三好松洛（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫38

二年正月　008竹　**菅丞相冥加の松梅**　かんせうしやうめうかのまつむめ　板木012（吉宗）　①なし　②なし　③山本九兵衛（京）・吉川宗兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※初演時刊行と思しき単行本未見。例示の包紙と本は、明和三年・二世「竹本政太夫一周忌追善」興行時の後摺本。

二年七月　009豊　**釜渕双級巴**　かまがふちふたつともゑ　板木129（空欄）　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

二年十月　010竹　**太政入道兵庫岬**　だいじやうにうだうひやうごのみさき　板木243（空欄）　①作者　竹田小出雲・竹田正蔵（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

三年正月　011竹　**行平儀馴松**　ゆきひらそなれまつ　文楽劇場（紙与）　①作者　文耕堂・竹田正蔵・三好松洛（内題下）　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫40

三年四月　012豊　**丹生山田青海剣**　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）

三年八月　013竹　**小栗判官車街道**　おぐりはんぐはんくるまかいたう　板木354（空欄）　①作者　千前軒・文耕堂（内題下）　②元文三年午八月十九日（初丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫40

三年十月　014豊　**茜染野中の隠井**　あかねぞめのなか　こもりゐど　板木079（空欄）　①並木宗輔添削・作者原田由良助（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）

四年二月　015豊　**奥州秀衡有餐堺**　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）　④国立劇場『未翻刻戯曲集・3』

四年四月　016竹　**ひらかな盛衰記**　――せいすいき　早大図（山九）　①作者連名　文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（内題下）　②元文四己未歳四月十一日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④岩波日本古典文学大系51

四年八月　017豊　**狭夜衣鴛鴦剣翅**　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）　④岩波新日本古典文学大系93

五年二月　018豊　**鵙山姫舎松**　①作者並木宗輔（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）　④叢書江戸文庫11

五年四月　019豊　**本田善光日本鑑**　①作者為永太郎兵衛（内題下）　②なし　③西沢九左衛門（大）

五年四月　020竹　**今川本領猫魔館**　いまがはほんりやうねこまたやしき　板木096（空欄）　①作者連名　文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（内題下）　②元文五庚申歳四月十一日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

五年七月　021竹　**将門冠合戦**　まさかどかふりかつせん　関大図（山九）　①作者連名　文耕堂・三好松洛・浅田可啓・竹田小出雲・千前軒（内題下）　②元文五庚申歳七月朔日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

五年九月　022豊　**武烈天皇譲**　①作者為永太郎兵衛（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

↓↓五年十一月『追善百日曽我』　※伝存不明

↓↓五年十一月『恋八卦柱暦』は、近松『大経師昔暦』七行本の改題。なお『大経師昔暦』八行本には、『貞享元年情柱暦』とする改題本（年次不明）がある。

［寛保］

元年正月　001竹　**伊豆院宣源氏鏡**　いづゐんぜんげんじかゞみ　演博（山九）　①作者　文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲・千前軒（内題下）　②元文六辛酉載正月十四日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　※中字十行本の内題は、『伊豆院宣源氏鑑』とある。

元年三月　002豊　**本朝斑女箋**　ほんちやうはんぢよがあふぎ　日大図（西九）　①作者為永太郎兵衛（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

元年五月　003竹　**新うすゆき物語**　●振り仮名なし　板木206（紙与）　①作者　文耕堂・三好松洛・小川半平・竹田小出雲（内題下）　②寛保元歳辛酉五月十六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④岩波新日本古典文学大系93

元年五月　004豊　**青梅撰食盛**　あをむめつわりざかり　板木087（西九）　①作者紀海音（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　※海音『心中二つ腹帯』の改題（部分改作）。

元年七月　005豊　**播州皿屋舗**　ばんしうさらやしき　日大図（万仁）　①作者　為永太郎兵衛・浅田一鳥（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫11

元文九月　006豊　**田村歷鈴鹿合戦**　たむらまろすゞかかつせん　演博（紙与）　①作者　浅田一鳥・豊田正蔵（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

007竹　**花衣いろは縁起**　はなごろも——ゑんき　板木288（紙与）　①作者　三好松洛・竹田小出雲（内題下）　②寛保二壬戌歳二月十四日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

二年三月　008　**石橋山鎧襲**　①作者　為永太郎兵衛・並木宗輔（終丁裏）　②于時安永三年甲午八月朔日（終丁裏）　③安于屋宇兵衛（大）・中山清七（江）・中島屋伊左衛門（江）　※通し本の開板は、安永三年のこと。

009豊　**百合稚高麗軍記**　ゆりわかかうらいぐんき　演博（西九）　①作者為永太郎兵衛。文者　並木宗輔・浅田一鳥（終丁裏）　②寛保二壬戌天弥生三日（終丁裏）　③正本屋九左衛門（大）　→→二年四月『室町千畳敷』は、近松『津国女夫池』の改題。

010竹　**男作五雁金**　おとこだていつゝかりがね　関大図（山九）　①竹田出雲掾作（内題下）　②寛保二戌歳七月二日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫40

011豊　**道成寺現在蛇鱗**　だうじやうじげんざいうろこ　天理図（西九）　①作者　浅田一鳥・並木宗輔（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）　④叢書江戸文庫37

012豊　**鎌倉大系図**　かまくらおほけいづ　板木130（万仁）　①作者為永太郎兵衛（内題下）　文者　浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶（終丁裏）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

013豊　**風俗太平記**　①作者為永太郎兵衛（内題下）　作者連名　浅田一鳥・豊岡珍平・小川半平（終丁裏）　②寛保三癸亥天弥生十八日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）

014竹　**入鹿大臣皇都諍**　いるかだいじんみさとあらそひ　板木098（山九）　①竹田出雲作（内題下）　②寛保三歳亥四月六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

015竹　**丹州爺打栗**　①作者　竹田小出雲・三好松洛（内題下）　②寛保三天癸亥五月十八日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

016豊　**久米仙人吉野桜**　くめのせんにんよしのさくら　園田女子大図（西九）　①作者為永太郎兵衛（内題下）　②寛保三龍集昭陽大淵献年秋八月十五日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）　④叢書江戸文庫37

［延享］

001竹　**児源氏道中軍記**　ちごげんじだうちうぐんき　板木259（天源）　①作者竹田出雲掾（内題下）門人三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）　②延享元甲子三月六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

002　**義経新含状**　①なし　②延享元年甲子三月（終丁裏）　③丸屋甚八郎（江）　※のちに『後藤伊達瞋』（年次不明。『増補腰越状』以前）、『増補腰越状』（安永五年二月以前）と改題される。

003豊　**潤色江戸紫**　①作者為永太郎兵衛（内題下）　作者連名　浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁表）　②延享元年甲子四月五日（終丁表）　③西沢九左衛門（大）

004豊　**柿本紀僧正旭車**　かきのもとのきそうじやうあさひくるま　板木114（西九）　①作者為永太郎兵衛（内題下）　作者連名　浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁裏）　②延享元閼逢困敦年九月十一黄（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）

005竹　**八曲筐掛絵**　はつきよくかたみのかけゑ　板木284（山九）　①編者竹田小出雲（終丁表）　②延享元甲子霜月十六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　※内題に「はつきよくかたみのかけゑ」と振り仮名がある。

006豊　**遊君衣紋鑑**　ゆうくんゑもんかゞみ　板木089（空欄）　①作者為永太郎兵衛（内題下）　②延享元年甲子臘月朔日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）　※終丁裏に「作者連名　浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴」を加えた改修板もある。

007　**三軍桔梗原**　①作者桜井頼母（内題下）　②延享貳乙丑載正月十二日（八十五丁表）　③天満屋源二郎（大）・堺屋勘四郎（大）　※終丁裏に「春艸堂・戸田吾文・松岡千助・岩瀬左門・文瀾堂」を加えた改修板もある。

008竹　**軍法富士見西行**　ぐんぽうふじみさいぎやう　板木151（紙与）　①作者　並木千柳・小川半平・竹田小出雲（終丁裏）　②延享二乙丑年二月十三天（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山

本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫40

009豊　**詩近江八景**　からうたあふみはつけい　天理図（西九）　①作者為永太郎兵衛（内題下）作者連名　浅田一鳥・豊岡珍平・但見仙鶴（終丁裏）　②延享二乙丑年二月廿七日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）

010　**延喜帝秘曲琵琶**　ゑんぎのみかどひきよくのびは　京大図（天源ほか）　①作者紀甘谷（内題下）　②延享貳載乙丑孟夏上三日（終丁裏）　③天満屋源二郎（大）・堺屋勘四郎（大）

二年五月　011豊　**増補大仏殿酬礎**　ぞうほだいぶつでんばんだいのいしずへ　板木228（空欄）　①作者　浅田一鳥・豊岡珍平（終丁裏）　②なし　③西沢九左衛門（大）

012竹　**夏祭浪花鑑**　なつまつりなにはかゞみ　板木272（紙与）　①作者　並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）　②延享弟（ママ）二孟秋十六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④岩波日本古典文学大系51

013豊　**浦島太郎倭物語**　うらしまたらうやまとものかたり　板木105（西九）　①作者為永太郎兵衛（内題下）文者　浅田一鳥・豊岡珍平・為永千蝶（終丁裏）　②なし　③西沢九左衛門（大）

014　**唐金茂衛門東鑒**　①作者　桜井頼母・並木和輔（終丁裏）　②延享弐歳乙丑臘月閏朔日・延享三歳丙寅正月十八日本出来（終丁裏）　③天満屋源一郎（大）　※内題に「たうがねもゑもんあづまかづら」と振り仮名がある。

015竹　**楠昔噺**　くすのきむかしばなし　板木145（空欄）　①作者　並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）　②延享三孟春十四日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④叢書江戸文庫40

→→三年五月『追善仏御前』は、［享保］002『仏御前扇軍』の改題。本としては題簽でのみ改題したものであるヵ。中尾松泉堂『古典目録』平成十四年正月新収古典籍特輯、289参照。

→→三年五月『追善重井筒』は、近松『心中重井筒』の改題。享保十八年七月『重井筒容鏡』よりの、再改題。大阪音楽大学本（奥欠）は、巻末に「音楽菩薩揃」を加える点が特徴。同興行番付では「切ふし事」を備えたと知られるが、これに相当する本文と推定する。

三年五月　016豊　**酒呑童子出生記**　しゆてんどうじしゆつしやうき　演博（西九）　①梁塵軒作（内題下）　②なし　③正本屋九左衛門（大）

→→三年二月～七月『博田小女郎思淵』（はかたこぢよらうおもひのなみまくら　板木282（空欄））は、近松『博多小女郎波枕』の改題（題簽・包紙）。

017　**歌枕棟堂花合戦**　うたまくらやまぶきかつせん　演博（天源）　①京春艸堂・大坂並木和輔／述（内題下）校合　戸田吾文・松岡千助・岩瀬左門（終丁裏）　②延享三丙寅歳仲秋朔日（終丁裏）　③玉水源二郎（大）

018竹　**菅原伝授手習鑑**　すがわらでんしゆてならひかゞみ　文楽協会（山九）　①竹田出雲作（内題下）作者連名　並木千柳・三好松洛・竹田小出雲（終丁裏）　②延享三年寅八月廿一日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④小学館日本古典文学全集45・日本古典全書『竹田出雲集』

019　**女舞剣紅楓**　①京春艸堂（内題下）　②延享三丙寅歳十月廿一日（終丁裏）　③玉水源二郎（大）　※年記を削った本もある。

020豊　**花筏巌流島**　はないかだがんりうしま　板木285（西九）　①作者　浅田一鳥・但見弥四郎・松屋来輔（終丁裏）　②延享三丙寅年霜月十七日（終丁裏）　③正本屋九左衛門（大）

021豊　**裙重紅梅服**　つまかさねこうばいこそで　板木264（万仁）　①作者　浅田一鳥・但見弥四郎（内題下）　②延享四丁卯年二月五日（終丁裏）　③正本屋九左衛門（大）　※内題に「つまかさねかうばいこそで」と振り仮名がある。

022　**鎮西八郎射往来**　ちんぜいはちらうゆみやわうらい　京大図（天源）　①京春艸堂（内題下）　②延享四年丁卯如月廿一日（終丁裏）　③玉水源二郎（大）

023豊　**万戸将軍唐日記**　まんこしやうぐんもろこしにつき　板木318（空欄）　①作者梁塵軒（終丁裏）　②延享四丁卯年弥生廿二日（終丁裏）　③正本屋九左衛門（大）　※終丁裏に「作者浅田一鳥・但見弥四郎・梁塵軒」を加えた改修板もある。

024豊　**悪源太平治合戦**　あくげんだへいぢかつ［せん］　板木081（空欄）　①作者　並木周蔵・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏）　②延享四丁卯歳七月廿八日（終丁裏）　③正本屋九左衛門（大）

025竹　**傾城枕軍談**　けいせいまくらぐんだん　板木160（吉宗）　①作者　並木千柳・三好松洛・竹田出雲（終丁裏）　②延享四年卯八月廿三日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

026　**いろは日蓮記**　①古人近松門左衛門作・当世市中庵添削（終丁裏）　②延享四丁卯歳小春吉祥日（終丁裏）　③近江屋藤兵衛（江）　※寛延二年『日蓮記児硯』と改題される。なお内題角書に「古人近松門左衛門作・当世並木宗輔添削」とある。「市中庵」は、並木宗輔の別号。

027竹　**義経千本桜**　よしつねせんぼんざくら　板木339（加清）　①作者　竹田出雲・三好松洛・並木千柳（終丁裏）　②延享四丁卯年霜月十六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）　④岩波新日本古典文学大系93。日本古典全書『竹田出雲集』

［寛延］

001豊 **容競出入湊** すがたくらべでいりのみなと 東京女子大図（西九） ①作者 並木丈輔・豊岡珍平・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏） ②延享戊辰歳正月五日（終丁裏） ③正本屋九左衛門（大） ④国立劇場『未翻刻戯曲集・12』

002豊 **東鑑御狩巻** あづまかゞみみかりのまき 東京芸大図（空欄） ①作者 並木丈輔・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏） ②寛延元戊辰天七月十五日（終丁裏） ③正本屋九左衛門（大）

003竹 **仮名手本忠臣蔵** かなでほんちうしんぐら 実践女子大図（吉宗） ①作者 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（終丁裏） ②寛延元年辰八月十四日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大） ④岩波日本古典文学大系51・小学館新編日本古典文学全集77・新潮日本古典集成70・日本古典全書『竹田出雲集』

004 **住吉誕生石** ①作者松井星照（終丁裏） ②寛延元年戊辰九月三日（終丁裏） ③山本九兵衛（京） ※のちに読本浄瑠璃『相生轡の松』と改題される。

005豊 **摂州渡辺橋供養** せつしうわたなべはしくやう 京大図（万仁） ①作者連名 豊丈助・安田蛙桂・浅田一鳥（終丁裏） ②寛延元歳辰霜月十五日（終丁裏） ③正本屋九左衛門（大） ④叢書江戸文庫37

006豊 **八重霞浪花浜荻** やゑがすみなにはのはまおぎ 龍谷大図（西九） ①作者 豊丈助・安田蛙桂・豊正助・浅田一鳥（終丁裏） ②寛延弐己巳歳弥生廿六日（終丁裏） ③正本屋九左衛門（大） ④国立文楽劇場『浄瑠璃正本翻刻集・1』

007竹 **粟島譜嫁入雛形** あはしまけいつよめいりひなかた 板木084（紙与） ①作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（見返し） ②寛延二己巳年卯月十八日（見返し） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）

008豊 **華和讃新羅源氏** はなわさんしんらげんじ 板木290（紙与） ①梁塵軒輯（終丁裏） ②寛延弐己巳歳文月十五日（終丁裏） ③正本屋九左衛門（大）

009豊 **浪花五節句操踊** ①なし ②なし ③西沢九左衛門（大） ※年表が「付録番付か、袋紙か。」と推定した「絵入の刷物」（所在など記載せず。大阪音楽大学所蔵資料をさすとすれば）は、抜き本の表紙である。大音大本は現在、当該表紙と本文二丁のみ残り、一見抜き本のようでもあるが、糸の綴じ穴も残るので、元来、通し本（糸綴じ）として刊行された可能性が残る。

010竹 **双蝶蝶曲輪日記** ふたつてふ〳〵くるわにつき 国会図（山九） ①作者連名 竹田出雲・三好松洛・並木千柳（終丁裏） ②寛延二己巳年七月廿四日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大） ④小学館新編日本古典文学全集77

→→寛延二年十月『日蓮記児硯』は、延享四年『いろは日蓮記』の改題。

011豊 **物ぐさ太郎** もの——たらう 広島文教女子大図（空欄） ①作者 浅田一鳥・安田蛙桂・豊丈助・豊正助・難波三蔵（終丁裏） ②寛延弐己巳年十一月四日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

012竹 **源平布引滝** げんへいぬのびきのたき 日大図（山九） ①作者 並木千柳・三好松洛（終丁裏） ②寛延弐年己十一月廿八日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ④岩波日本古典文学大系52

013豊 **手向八重桜** たむけのやゑさくら 板木115（空白） ①なし ②寛延三歳次庚午三月十五日 ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大） ④国立文楽劇場『浄瑠璃正本翻刻集・1』

014豊 **夏楓連理枕** なつもみぢれんりのまくら 板木273（西九） ①作者 浅田一鳥・安田蛙桂・豊正助・難波三蔵（終丁裏） ②寛延三歳庚午六月朔日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

015 **新板累物語** ①作者並木良輔（内題下）作者連名 一二三軒・八州堂・三楽坊（終丁裏） ②寛延三庚午載八朔吉祥日（終丁裏） ③西沢九左衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ※寛政四年『累解脱打舗』と改題される。

三年八月ごろ 016 **傾城買指南** ①なし ②なし ③西沢九左衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ※前項『新板累物語』に同板の奥付をもつ本が残ることから、開板を『新板累物語』に前後する時期と推定する。年表は「宝暦五年以前」と推定。

017竹 **文武世継梅** ①作者 並木千柳・三好松洛（終丁裏） ②寛延三歳午霜月廿四日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ※題簽に「ぶんぶよつぎのむめ」と振り仮名がある。

［宝暦］

001豊 **玉藻前曦袂** ①作者浪岡橘平。作者 浅田一鳥・安田蛙桂（終丁裏） ②寛延四辛未歳正月十四日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

002竹 **恋女房染分手綱** こひにようぼうそめわけたづな 板木175（空欄） ①作者 吉田冠子・三好松洛（終丁裏） ②寛延四年辛未二月朔日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

003豊　**浪花文章夕霧塚**　なにはぶんしやうゆふきりづか　板木274（空欄）　①作者浪岡橘平。作者　浅田一鳥・安田蛙桂（終丁裏）　②寛延四辛未天四月廿五日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

→宝暦元年七月『頼政扇子芝』は、享保九年二月『頼政追善芝』の改題。

004　**八幡太郎東海硯**　①東武之商家　一二三軒一作（終丁裏）　②于時寛延四辛未中秋八朔（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※のち寛政四年正月『陸奥名所硯』と改題される。

005豊　**日蓮聖人御法海**　にちれんしやうにんみのりのうみ　板木277（空欄）　①作者　並木鯨児・安田蛙桂。添削　浅田一鳥・並木宗輔（終丁裏）　②寛延四辛未年十月十日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）　④国立劇場『未翻刻戯曲集・10』　※作者二人目を「並木正三」とする改修板がある。

006竹　**役行者大峰桜**　ゑんのぎやうじやおほみねざくら　九大文（山九）　①作者竹田外記。門人　近松半二・竹田文四（終丁裏）　②寛延四年辛未十月十七日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　④叢書江戸文庫14

007豊　**一谷嫩軍記**　いちのたにふたばぐんき　原道生氏（西九）　①作者　浅田一鳥・浪岡鯨児・並木正三・難波三蔵・豊竹甚六。故人並木宗輔（終丁裏）　②宝暦元辛未天臘月十一日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

→宝暦元年ヵ『親鸞聖人絵伝記』　※伝存不明

008竹　**名筆傾城鑑**　めいひつけいせいかゞみ　板木325（紙与）　①作者　吉田冠子・中邑閏助・三好松洛（終丁裏）　②宝暦弐年壬申三月廿三日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

009竹　**世話言漢楚軍談**　せわことばかんそぐんだん　板木224（空欄）　①作者竹田外記（内題下）　作者　三好松洛・近松半二・中邑閏助・吉田冠子（終丁裏）　②宝暦弐壬申天五月十八日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

010　**太平記枕言**　①作者浪華安田蛙文（内題下）　作者　東武商家一二三軒・野沢雁使（終丁裏）　②于時宝暦二壬申七月廿一日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※寛政四年二月『義直艶書隊伍立』と改題される。

011竹　**伊達錦五十四郡**　だてにしきごじうしくん　板木252（山九）　①作者　三好松洛・近松半二・中邑閏助・吉田冠子（終丁裏）　②宝暦弐壬申年霜月十六日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※内題下「作者竹田出雲」と埋木した改修板がある。

012豊　**倭仮名在原系図**　やまとかなありはらけいづ　中之島図（西九）　①作者　浅田一鳥・浪岡鯨児・並木素柳・豊竹甚六（終丁裏）　②宝暦弐壬申年大呂七日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

013竹　**愛護稚名歌勝関**　あいごのわかめいかのかちどき　国立劇場（山九）　①作者　竹田外記・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦三癸酉年五月吉日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　④叢書江戸文庫14　※書名は題簽に拠る。初板は「初段」とあって、内題がない。「愛護椎名歌勝関　初段」と埋木した改修板もある。

014豊　**雄結勘助島**　①浅田一鳥・浪岡鯨児・並木素柳・豊竹甚六（終丁裏）　②宝暦三癸酉天文月廿八日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

015竹　**菖蒲前操弦**　①作者　竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦四甲戌年二月三日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

016豊　**相馬太郎苧文談**　さうまたらうみばへぶんだん　東京芸大図（空欄）　①作者並木永輔（内題下）　作者　浅田一鳥・浪岡蟹蔵・並木素柳・豊竹千篠（終丁裏）　②宝暦四年甲戌如月廿一日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

017竹　**小袖組貫練門平**　こ［そで］くみくはんねらもんぺい　板木171（無記載）　①作者　竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦四甲戌年四月十七日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

018豊　**義経腰越状**　よしつねこしごゑじやう　国立劇場（正小）　①なし　②宝暦甲戌初秋念九（跋）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）　※第三までの未完本。

→四年十月以前『太平記曦鎧』（たいへいきあさひのよろひ　板木245（紙与））は、享保八年二月『大塔宮曦鎧』の改題。

019竹　**小野道風青柳硯**　おのゝたうふうあをやきすゞり　板木356（山九）　①作者　竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦四甲戌年十月三日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　④叢書江戸文庫14

020豊　**天智天皇苅穂菴**　てんちてんわうかりほのいをり　板木268（西九）　①作者並木永輔（内題下）　作者　浅田一鳥・浪岡黒蔵主・豊竹上野（終丁裏）　②宝暦四甲戌年十二月十五日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

021豊　**三国小女郎曙桜**　みくにこぢよろあけぼのざくら　日大図（西九）　①作者　難波三蔵・豊竹上野（終丁裏）　②宝暦五乙亥年四月廿一日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

五年六月　022竹　**庭涼座鋪操**　①なし　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※目録に「にはすゞみざしきあやつり」と振り仮名がある。付け物の七段に関連して、旧板を寄せ集めたもの。ただし巻末『浄瑠璃万歳』は新刻（この時が初演）。

023豊　**双扇長柄松**　ふたつあふぎながらのまつ　板木305（万仁）　①作者連名　並木永輔・浅田一鳥・難波三蔵・三津飲子・浪岡黒蔵主・豊竹上野（終丁裏）　②宝暦五年乙亥七月七日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

五年七月　024竹　**庭涼操座鋪**　にはすゞみあやつりざしき　天理図（山九）　①なし　②なし　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※付け物の七段に関連して、旧板を寄せ集めたもの。『義経千本桜』四ノ切「狐」は、現行本文に同じ増訂を行なう。巻末『浄瑠璃万歳』は、同年六月『庭涼座鋪操』より板木転用（太夫指定を埋木で改訂）。

五年十月　025　**苅萱桑門墨染桜**　①近松門左衛門作（内題下）　②于時宝暦五乙亥年初冬（本文末）　③なし　※書誌は、大倉集古館の写本に拠る。ほかに演博辻町文庫にも写本一点が伝わる。

026竹　**拍子扇浄瑠璃合**　ひやうしあふぎじやうるりあはせ　板木057（山九）　①なし　②宝暦五年乙亥十一月十六日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

027竹　**年忘座鋪操**　としわすれざしきあやつり　中之島図（山九）　①なし　②宝暦五年乙亥十一月十六日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※内題に「としわすれざしきあやつり」と振り仮名がある。付け物の七段に関連して、旧板を寄せ集めたもの。『壇浦兜軍記』三ノ口「あこや責」は、現行本文に同じ省略と書換えを行なう。

028竹　**崇徳院讃岐伝記**　しゆとくゐんさぬきでんき　金刀比羅宮図（山九）　①作者連名　竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦六年丙子如月朔日（終丁表）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

029豊　**義仲勲功記**　よしなかくんこうき　演博（西九）　①作者連名　浅田一鳥・黒蔵子・七才子・難波三蔵・豊竹応律（終丁裏）　②宝暦六年丙子三月十八日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）　※作者二人目「黒蔵主」と埋木した改修板もある。

→六年五月『業平男今様井筒』は、享保十四年十一月『京土産名所井筒』の改題。

030竹　平惟茂凱陣紅葉　たいらのこれもちかいぢんもみぢ　京大図（山九）　①千前軒門人　作者　竹田出雲・吉田冠子・近松景鯉・近松半二・中邑閏助・三好松洛（終丁表）　②宝暦六年丙子十月十五日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

031豊　**甲斐源氏桜軍配**　かいげんじさくらぐんばひ　演博（西九）　①作者　浅田一鳥・黒蔵主・三津飲子・難波三蔵・豊竹応律（終丁裏）　②宝暦六年丙子閏十一月朔日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

032豊　**写画足利染**　うつしゑすがたあしかゞそめ　板木104（西九）　①作者連名　浅田一鳥・黒蔵主・三津飲子・難波三蔵・豊竹応律（終丁裏）　②宝暦七年丁丑正月廿六日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

033竹　**姫小松子日の遊**　ひめこまつねのひ　あそび　関大図（山九）　①千前軒門人　作者　吉田冠子・近松景鯉・竹田小出雲・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦七年丁丑二月朔日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

034豊　**前九年奥州合戦**　ぜんくねんおうしうかつせん　板木225（空欄）　①作者連名　浅田一鳥・黒蔵主・七才子・難波三蔵・豊竹応律（終丁裏）　②宝暦七年丁丑三月廿日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

035　**泉三郎伊達目貫**　①なし　②宝暦七丁丑年秋七月吉日（終丁裏）　③西沢九左衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

036竹　**薩摩歌妓鑑**　さつまうたげいこかゞみ　板木186（空欄）　①千前軒門人　作者　吉田冠子・近松景鯉・竹田小出雲・近松半二・三好松洛（終丁表）　②宝暦七年丁丑九月晦日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

037豊　**祇園祭礼信仰記**　ぎおんさいれいしんこうき　板木143（空欄）　①作者連名　中邑阿契・豊竹応律・黒蔵主・三津飲子・浅田一鳥（終丁裏）　②宝暦七年丁丑臘月初五日（終丁裏）　③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）　④叢書江戸文庫37

038竹　**昔男春日野小町**　むかしおとこかすがのごまち　金沢大図（山九）　①作者　故竹田出雲・竹田滝彦（内題下）　千前軒門人　作者　竹田小出雲・北窓後一・竹土丸・近松半二（終丁表）　②宝暦七年丁丑十二月十五日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

039竹　**敵討崇禅寺馬場**　かたきうちそうぜんじばま　大阪市立図（山九）　①作者　竹田小出雲・竹田滝彦（内題下）　千前軒門人　作者　吉田冠子・近松半二・竹土丸・北窓後一・三好松洛（終丁表）　②宝暦八年戊寅三月十三日（終丁裏）　③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

040　**聖徳太子職人鑑**　しやうとくたいししよくにんかゝみ　板木197（空欄）　①浪花作者並木正三。東都作者　一二三改文鐘軒・吉川盛紅（終丁裏）　②于時宝暦八戊寅歳八月朔日（終丁裏）

③鱗形屋孫兵衛（江）

041竹 **蛭小島武勇問答** ひるがこしまぶゆうもんどう 板木303（紙与） ①千前軒門人 作者 竹田小出雲・吉田冠子・近松半二・三好松洛・竹田滝彦（終丁表） ②宝暦八年戊寅八月十九日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

→→宝暦九～十一年正月『浪花土産年玉操』 ※伝存不明

042竹 **日高川入相花王** ひだかがはいりあいざくら 板木293（紙与） ①千前軒門人 作者 竹田小出雲・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・二歩堂（終丁表） ②宝暦九年己卯二月朔日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ④国立劇場『未翻刻戯曲集・7』

043豊 **芽源氏鶯塚** つのげんじうくひすつか 板木263（西九） ①作者連名 浅田一鳥・黒蔵主・七才子・中邑阿契・豊竹応律（終丁裏） ②宝暦九年己卯弥生三日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

044豊 **難波丸金鶏** なにはまるこがねのにはとり 神津（西九） ①作者連名 若竹笛躬・豊竹応律・中邑阿契（終丁裏） ②宝暦九年己卯五月十四日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

045竹 **太平記菊水之巻** たいへいききくすいのまき 愛媛大図（山九） ①竹田小出雲（内題下） 千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦九年己卯九月十六日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江） ④叢書江戸文庫14

→→九年十月『楠正行軍略之巻』は、前項『太平記菊水之巻』の改題（改題本の刊行はなかったらしい）。

046豊 **先陣浮洲巌** せんぢんうきすのいわ 板木227（万仁） ①作者連名 浅田一鳥・七才子・黒蔵主・豊竹応律・中邑阿契（終丁裏） ②宝暦九年己卯十二月七日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

047豊 **桜姫賤姫桜** さくらひめしづのひめざくら 日大図（西九） ①作者連名 若竹笛躬・豊竹応律・中邑阿契（終丁裏） ②宝暦十年庚辰三月十一日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

048竹 **極彩色娘扇** ごくさいしきむすめあふぎ 板木166（紙与） ①竹田出雲（内題下） 千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦拾歳庚辰七月廿一日（終丁表） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

049豊 **祇園女御九重錦** ぎをんによごこゝのへにしき 演博（西九） ①作者 若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏） ②宝暦拾歳庚辰臘月十一日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大） ④叢書江戸文庫37

050竹 **安倍晴明倭言葉** あべのせいめいやまとことば 板木086（山九） ①竹田出雲掾（内題下） 千前軒門人 作者 二歩堂・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦拾一年辛巳正月廿日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

051竹 **由良湊千軒長者** ゆらのみなとせんげんちやうじや 新潟大図（山九） ①竹田小出雲（内題下） 千前軒門人 作者 二歩軒・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦十一年辛巳五月十六日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

052豊 **曽根崎模様** そねさきもやう 板木236（空欄） ①作者 若竹笛躬・浅田一鳥・福松藤助・黒蔵主・中邑阿契（終丁表） ②宝暦十一年辛巳五月十八日（終丁表） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大） ※のちに［明和］末尾『桂川恋の柵』と改題される。

053豊 **人丸万歳台** ひとまるばんせいのうてな 板木295（空欄） ①作者 豊竹応律・浅田一鳥・中邑阿契・黒蔵主・七才子・若竹笛躬・福松藤助（終丁裏） ②宝暦十一年辛巳九月十日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

→→十一年九月ころ『下総国累磊』 ※伝存不明

→→十一年十月『冬籠難波梅』 ※伝存不明

054竹 **古戦場鐘懸の松** こせんぢやうかねかけ まつ 文楽劇場（山九） ①竹田出雲（内題下） 千前軒門人 作者 二歩軒・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦十一年辛巳十一月廿日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

055豊 **三好長慶確軍談** ①作者梁塵軒（終丁裏） ②宝暦拾二壬午天如月廿四日（終丁裏） ③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）

056竹 **花系図都鑑** はなけいづみやこかゞみ 京大図（山九） ①竹田出雲（内題下） 千前軒門人 二歩軒・近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛・三好松洛（終丁表） ②宝暦拾二年壬午三月廿一日（終丁裏） ③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

057豊 **岸姫松轡鑑** きしのひめまつくつわかゞみ 文楽劇場（西九） ①作者 豊竹応律・若竹笛躬・福松藤助・浅田一鳥・黒蔵主・並木永輔（終丁表） ②宝暦拾二年閏四月十八日（終丁表）

③鱗形屋孫兵衛（江）・西沢九左衛門（大）
→→十二年六月『夏景色浄瑠璃合』伝存不明

058竹　**奥州安達原**　おうしうあだちがはら　日大図（山九）①作者竹田和泉（内題下）千前軒門人　作者　近松半二・北窓後一・竹本三郎兵衛（終丁表）②宝暦十二年壬午九月十日（終丁裏）③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

059豊　**洛陽瓢念仏**　①作者梁塵軒（終丁裏）②宝暦十三年未三月六日（終丁裏）③正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江）

060竹　**山城の国畜生塚**　やましろ　くにちくしやうづか　演博（山九）①竹田和泉掾（内題下）千前軒門人　作者亶　近松半二・竹本三郎兵衛（終丁表）②宝暦拾三歳癸未四月十三日（終丁表）③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）④叢書江戸文庫14

061竹　**天竺徳兵衛郷鏡**　①竹田和泉掾（内題下）千前軒門人　作者亶　近松半二・竹本三郎兵衛（終丁表）②宝暦拾三歳癸未四月十三日（終丁表）③山本九兵衛（京）・山本九右衛門（大）・鱗形屋孫兵衛（江）④国立劇場『未翻刻戯曲集・5』

062豊　**新舞台咲分牡丹**　①集之　若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏）②宝暦十三年未四月十八日（終丁裏）③正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※旧作二作（『東鑑御狩巻』『北条時頼記』）と、新作三作（『三拾石艠始』『双紋刀銘月』『女天神手習伝授』）の取り合わせ上演。『女天神手習伝授』は、『菅原伝授手習鑑』四ノ切「手習児家」の豊竹座再演。前に増補場面を加えたもの。また『双紋刀銘月』は、のち安永二年正月『刀屋半七鯉初花』と改題される。
→→十二年六月『御前懸浄瑠璃相撲』※伝存不明

063豊　**新舞台扇子錦木**　しんぶたいあふぎにしきゞ　板木212（空欄）①なし　②なし　③奥欠　※奥欠本一点のみ残る（演博）。書名は、当該本所収曲と一致する絵尽に拠る推定。前々項『新舞台咲分牡丹』と一連の興行。『賢真鳥実記』は「享保」016『大内裏大友真鳥』、『玉祭返魂香』は近松『傾城反魂香』の改題。

064豊　**番場忠太紅梅箙**　ばんばのちうだこうばいゑびら　板木292（空欄）①作者　若竹笛躬・中邑阿契（終丁裏）②宝暦十三年未蝋月八日（終丁裏）③正本屋小兵衛（大）・鱗形屋孫兵衛（江）　※年記「蝋」の虫偏を埋木して「臘」とした改修板もある。
→→宝暦年中『あづま撰恋山崎』※伝存不明。なお上演年を、演博絵尽目録は「明和6年後半ヵ」と推定する。
→→宝暦年中『天神記恵松』は、近松『天神記』の改題（包紙と題簽）。ただし宝暦年中に刊行されたとみるべき本は残らない。
→→宝暦十二～十三年『銘石川五右衛門』※伝存不明。なお上演年を、年表絵尽目録は「宝暦十二年から明和元年」と推定するが、絵尽を西沢九左衛門が刊行するので、宝暦十三年を下ることはあり得ない。